



株式会社フリークアウト・ホールディングス
(東証グロース：6094)

2026年9月期 第2四半期
決算説明資料

2026年5月15日

Section1 ハイライト

Section2 セグメント別の状況

Section3 第2四半期決算の状況

※ 本決算説明資料の基礎データの一部は、IRライブラリからExcelファイルでダウンロードいただけます。
(ダウンロードリンクは[こちら](#))

Section1 ハイライト

26年9月期Q2 実績

		前年同四半期比	業績予想進捗率
売上	142.8 億円	+23.0%	52.8%
EBITDA	10.9 億円	+154.8%	72.0%
調整後当期利益	2.1 億円	+60.4%	92.2%

※投資事業の売却益 / 減損を含めず

26年9月期 業績予想*

売上高	556 億円
EBITDA	31.0 億円
調整後当期利益	9.5 億円

*2026年3月19日に上方修正

サマリー

Q2実績：売上・利益（EBITDA）ともに四半期単位で過去最高を更新

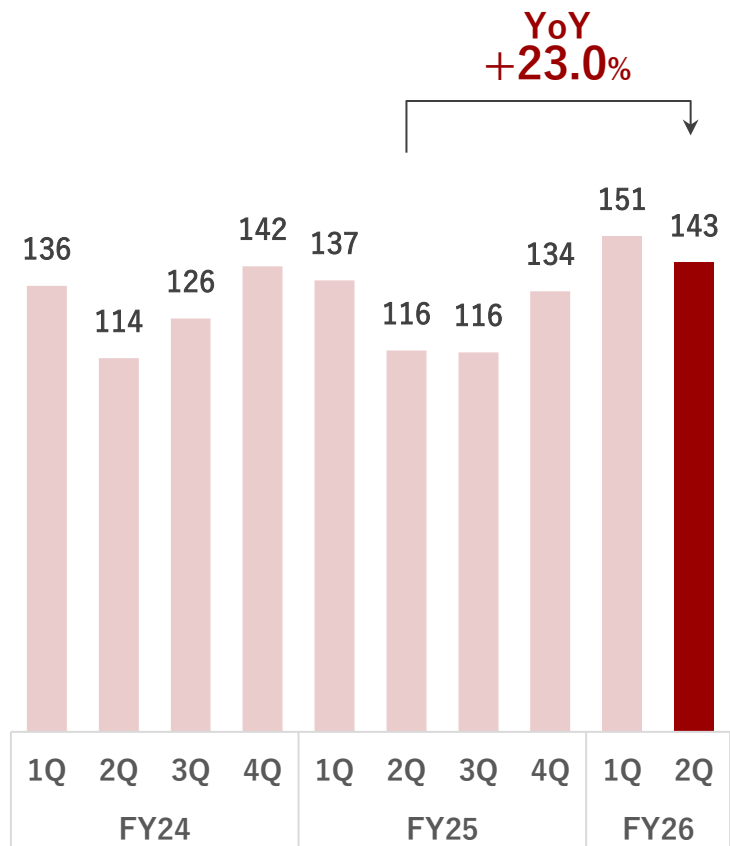
- クリエイタービジネスが全体の力強い成長を牽引したほか、プロダクト事業もIRISやスミカが好調に推移
- 北米事業は売上大幅増も販管費増の影響等で一時的に赤字が拡大（第3四半期以降は黒字回復）
- 投資先の一部売却を実施し、約5.4億円程度の利益を計上（調整後当期利益に含まない）

進捗：上期累計で通期目標を大きく超過も、第3四半期の苦戦を考慮して、上方修正は行わない

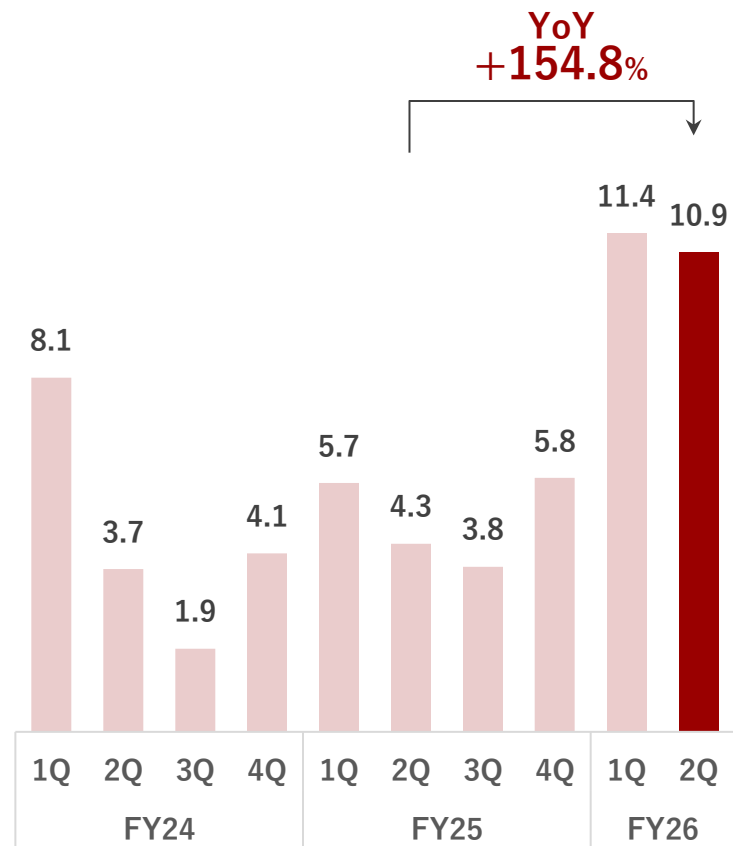
- 通期予想に対する進捗率は、EBITDA 72.0%、調整後当期利益 92.2%と、利益面ですでに高い進捗を記録
- 通期目標達成に向けて引き続き順調に推移しているが、第3四半期以降プロダクト事業の動画・CTV領域の粗利減が生じること、北米事業の利益回復の程度の見極めが必要であることから、現時点での上方修正は見送る

単位：億円

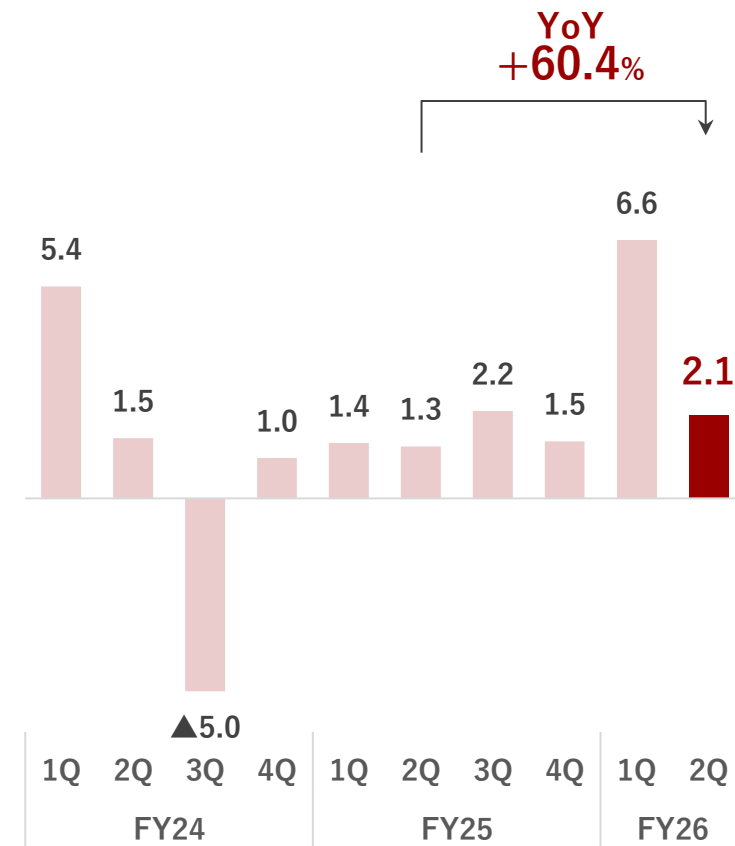
売上高



EBITDA¹



調整後当期利益²



1. 営業利益+減価償却費+のれん償却費+持分法による投資利益+株式報酬費用+M&Aに関する株式取得・売却関連費用

2. 親会社に帰属する当期純利益+のれん償却費および買収に伴う無形資産償却費+株式報酬費用±一過性の損益調整額 (※)

※今四半期では主にタレントの売却益・一部有価証券の評価損の影響を排除

(単位:億円)	売上高		EITDA		ハイライト
	FY26 2Q	YoY	FY26 2Q	YoY	
全体	142.8	+23.0%	10.9	+154.8%	
プロダクト	30.9	▲15.1%	6.2	▲4.7%	<ul style="list-style-type: none"> セグメント変更影響（中国・韓国事業）除き：売上▲4.9%、EBITDA+0.02%
クリエイター ビジネス	58.8	+27.8%	5.5	+439.2%	<ul style="list-style-type: none"> セグメント変更影響（中国・韓国事業）除き：売上+17.5%、EBITDA+426.9%
北米	48.7	+39.4%	▲1.0	-	<ul style="list-style-type: none"> 前年と比較して販管費増の影響で、増収・減益。 当初想定よりもEBITDAはややネガティブも第3四半期以降予定回復
その他	4.3	+5.7億円	0.3	+3.1億円	<ul style="list-style-type: none"> UUUMのコーポレート機能を移管した影響によるコスト増（約3億円） タレントイオ社売却の影響（売上・EBITDAともに+6.0億円）

*その他は、投資事業、連結調整（売上）、その他持分法投資先、本社コスト（EBITDA）等の合算値

現役の日本サッカー代表選手・監督など多くのアスリート・スタッフに対してマネジメントや社会貢献活動支援を提供する、日本トップクラスのスポーツエージェンツ「UDN SPORTS」をグループ化。



株式会社UDN SPORTS

【理念】

- ・アスリートにとって最上の環境を提供し続ける。
- ・アスリートとの最善の関係を築ける会社であり続ける。
- ・新しいことにチャレンジし続ける世界を舞台にする企業となることを目指し続ける。



契約選手
約 **180** 名

所属選手の市場価値※
約 **215** 億円

参考： <https://www.transfermarkt.jp>
※1ユーロ=183円のレートに基づき試算



UDN SPORTSと、UUUMを含むフリークアウトグループのアセットのかけあわせによって、アスリート価値の最大化をともに目指す。



アスリートマネジメントの
圧倒的な実績

AIに代替されない
「人らしい」
価値を生み出し続ける



広告テクノロジー



インフルエンサーマネタイズ



グローバル展開



Section2 セグメント別の状況

- 動画・CTV領域の粗利減やアジアでの苦戦が続くも、IRISの過去最高益・スミカの貢献により、予算を上回る利益を達成。
- 第3四半期は、動画・CTV領域の商流変更による粗利減の影響がフルに発現すること、季節性による広告需要減の影響で、業績面で底打ちとなる見込み（第4四半期以降再成長へ）

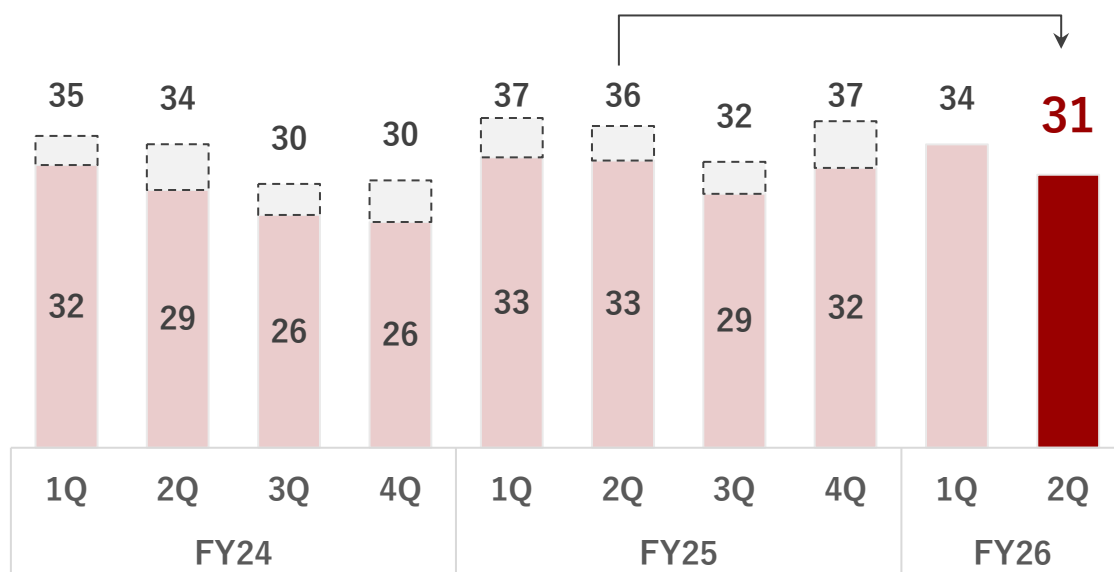
中国・韓国事業（FY26Q1以降プロダクトからクリエイターにセグメント変更）

単位：億円

売上高

YoY ▲15.1%

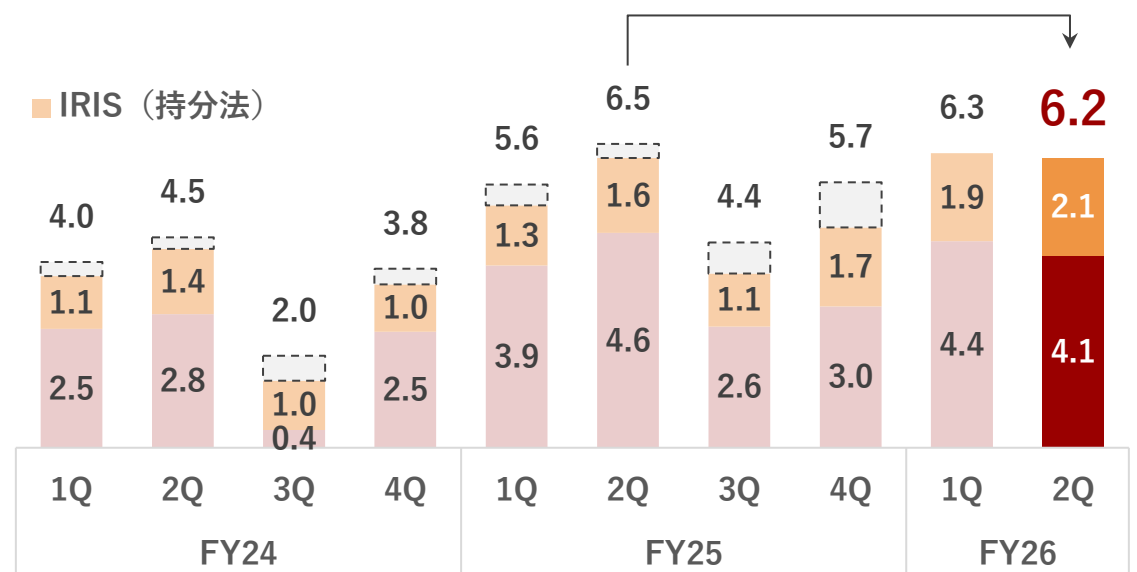
(中国・韓国事業除き ▲4.9%)



EBITDA

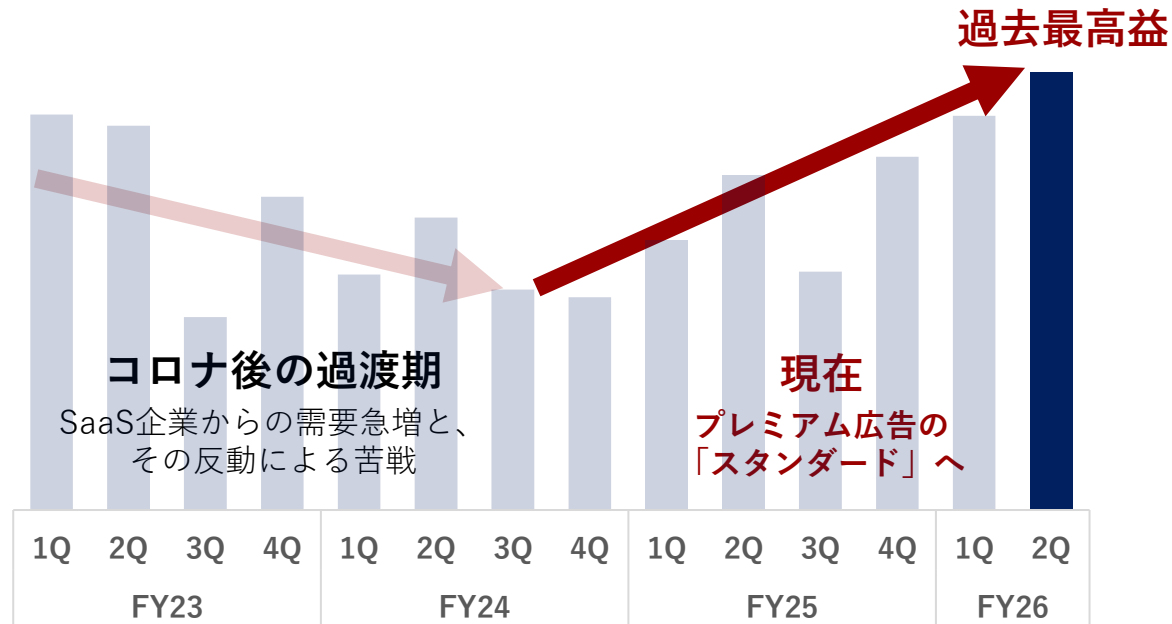
YoY ▲4.7%

(中国・韓国事業除き +0.02%)



- IRISの提供するTOKYO PRIMEが、「プレミアム広告のスタンダード」へと進化。ナショナルブランドが指名する媒体としての地位を確立し、過去最高益を更新。
- 今後も再現性高く利益が見込める、安定した収益基盤へと成長。

IRISの利益推移



プレミアムな空間づくりへの投資



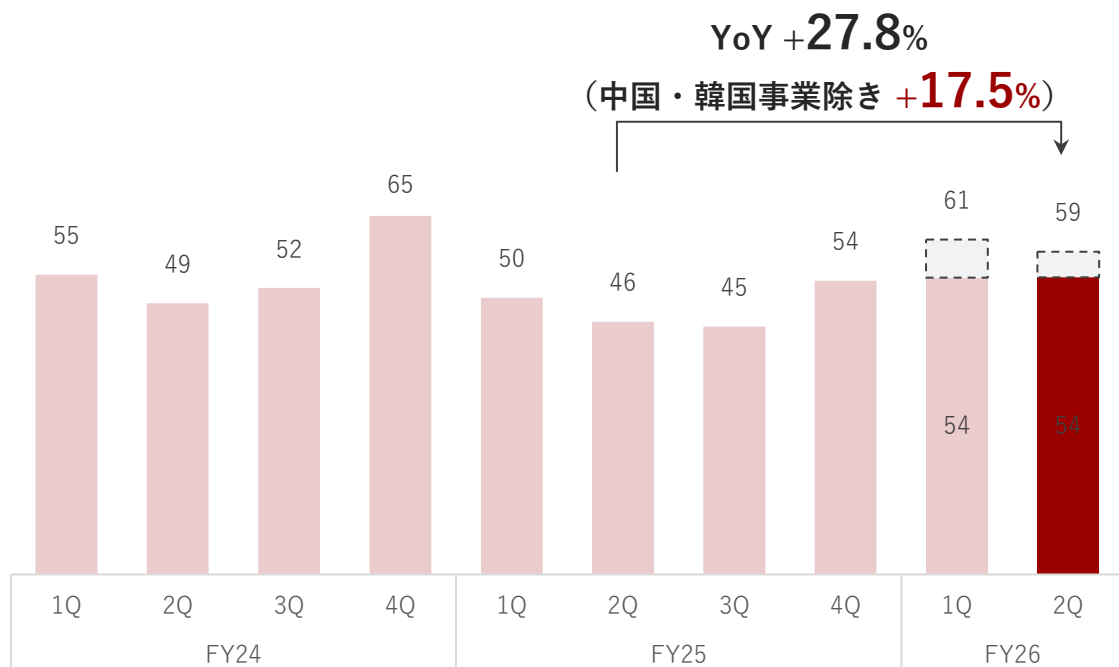
- 2024年3月より独自コンテンツ「ひみつのPRIME」を開始。超有名タレントを次々と起用した高品質な番組を配信。
- 単なる広告枠から「上質なエンタメ空間」へと昇華。ナショナルブランドが指名する媒体としての地位を確立。

- グッズ、P2Cなどの既存事業の好調や、大型イベントの成功を要因に、前四半期に続き売上高・利益ともに大幅な成長を実現。実質EBITDAは前年同期比+130.4%
- 第2四半期に先行したグッズ販売等の収益が落ち着くため、第3四半期は売上・利益ともに減少する見込み（第4四半期以降再成長）

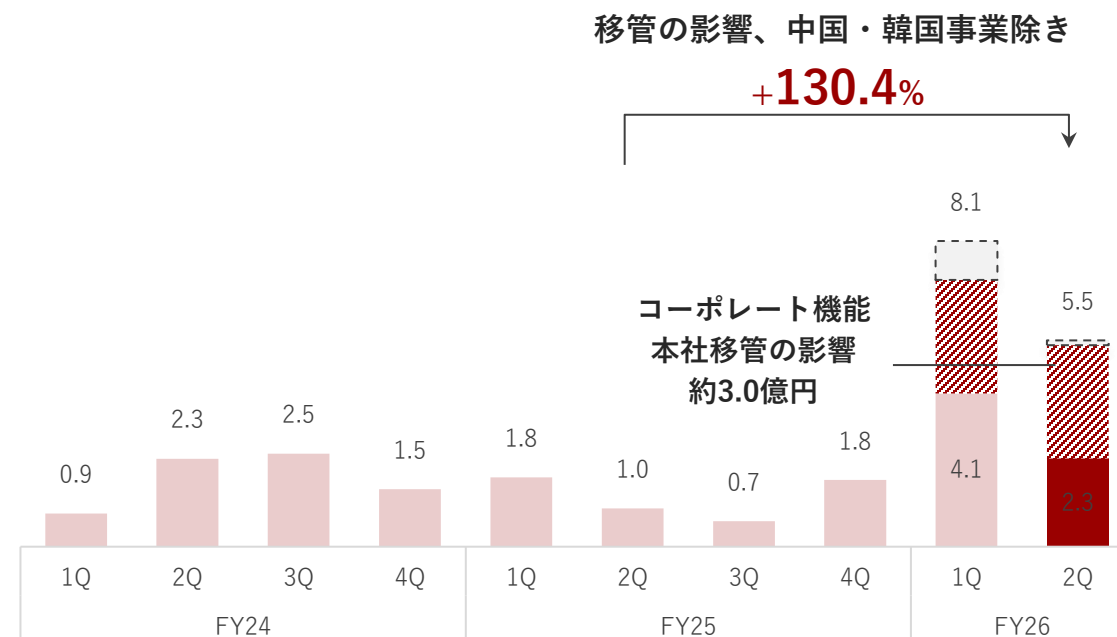
中国・韓国事業（FY26Q1以降プロダクトからクリエイターにセグメント変更）

単位：億円

売上高



EBITDA

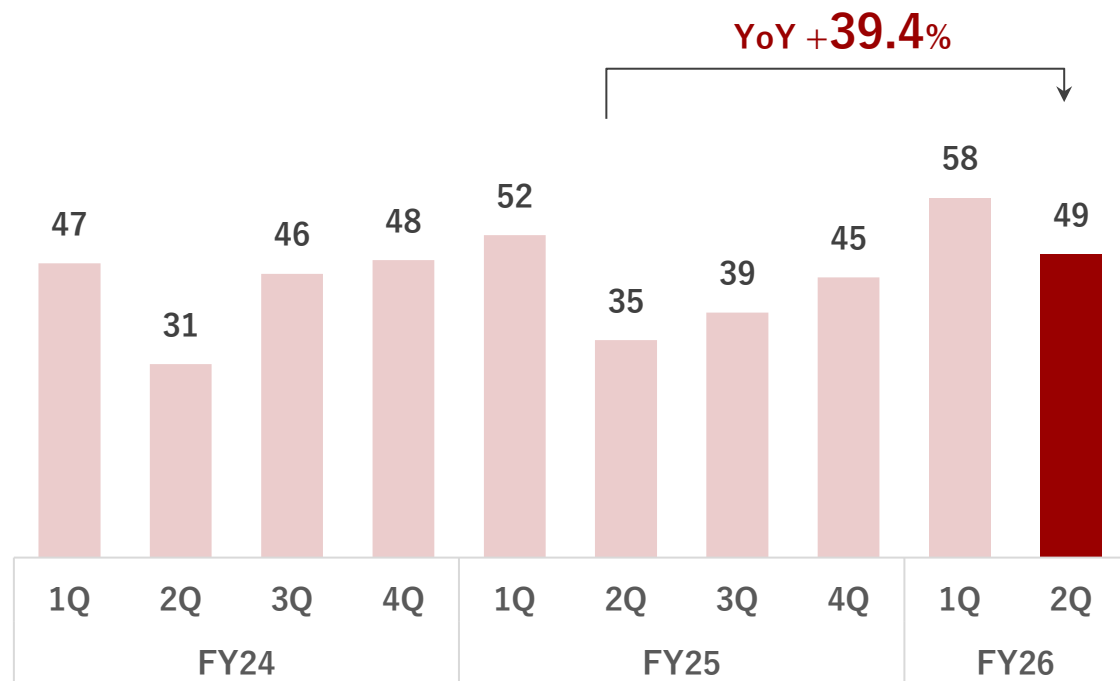


- 売上高で前年比+39.4%と伸長も、EBITDAは季節性や体制強化に伴う販管費増の影響により赤字着地。
- 第3四半期以降は黒字回帰を見込み、通期EBITDA7億円の目標は維持。

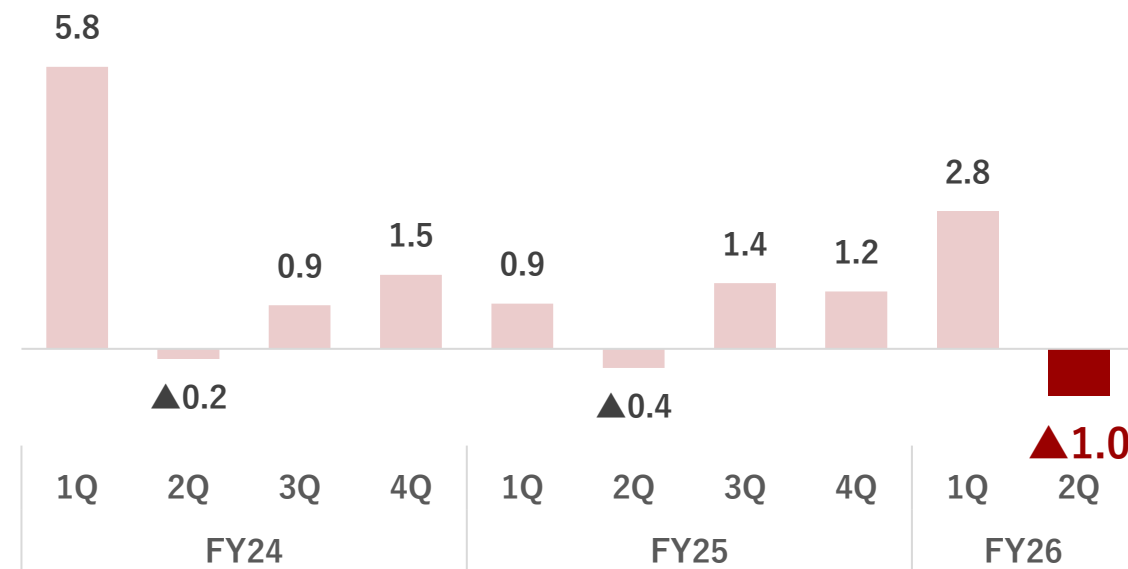
※現地通貨ベース（USD）の実績はAppendixに掲載

単位：億円

売上高



EBITDA



Section3 第2四半期決算の状況

- 各段階利益は前年同四半期比較で大幅増益。
- 調整後当期利益は、タレントイオ売却の一過性影響を除いて2.1億円。

単位:億円

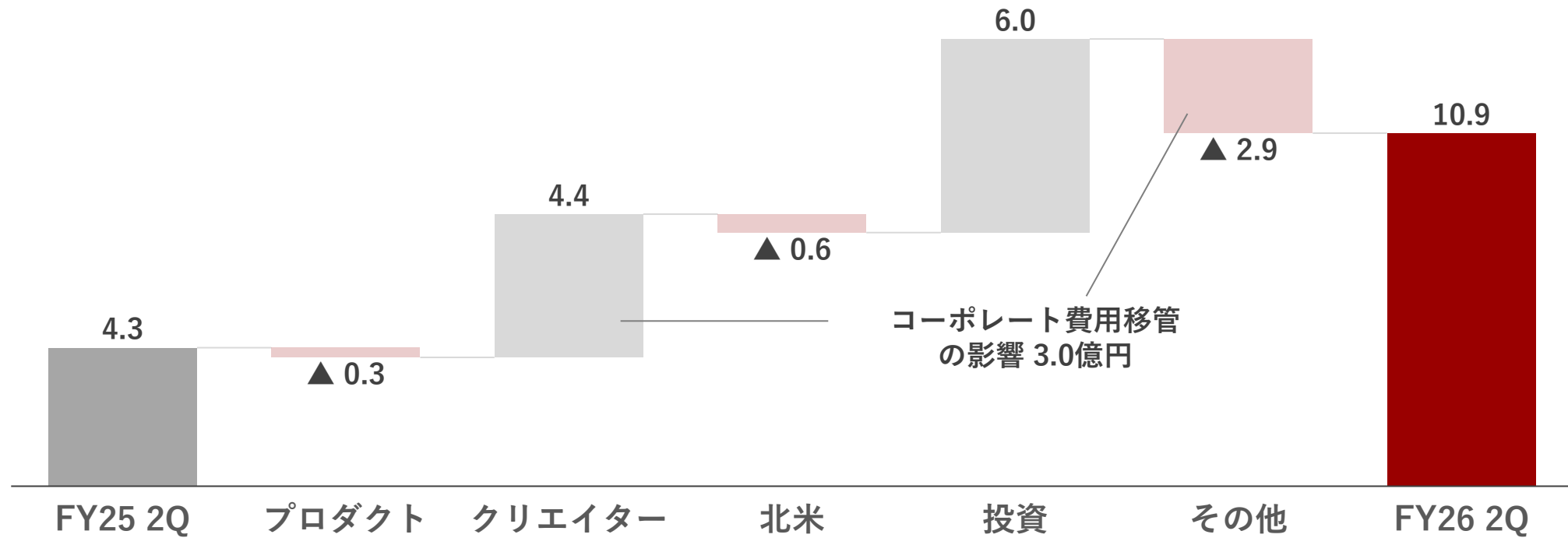
	26年9月期 2Q	25年9月期 2Q	YoY
売上高	142.8	116.1	+23.0%
EBITDA ¹	10.9	4.3	+154.8%
営業利益	5.3	▲ 0.4	-
経常利益	7.7	▲ 2.2	-
調整後当期利益 ²	2.1	1.3	+60.4%
親会社株主に帰属する当期純利益	4.6	▲ 2.3	-

1. 営業利益+減価償却費+のれん償却費+持分法による投資利益+株式報酬費用+M&Aに関する株式取得・売却関連費用

2. 親会社に帰属する当期純利益+のれん償却費および買収に伴う無形資産償却費+株式報酬費用±一過性の損益調整額 (※)

※今四半期では主にタレントイオの売却益・一部有価証券の評価損の影響を排除

EBITDAは、タレントイオ売却益を除いても前年同四半期比で成長

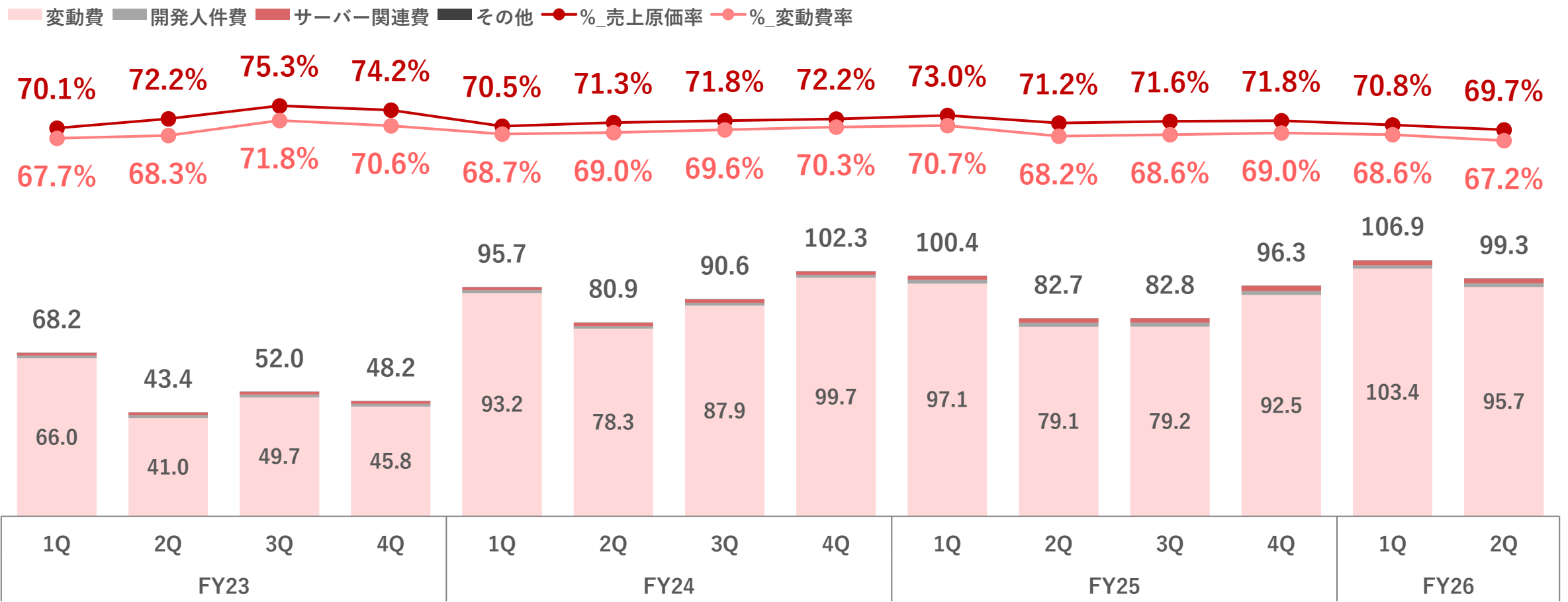


IRISの好調により、持分法投資利益は四半期ベースで過去最高益を達成

単位:億円	FY24				FY25				FY26	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
営業利益	3.7	▲2.0	▲2.2	0.6	1.6	▲0.4	▲1.3	1.0	6.2	5.3
持分法投資利益	0.8	2.3	1.3	1.0	1.3	1.8	1.9	1.6	2.2	2.6
のれん償却費	1.1	0.9	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
減価償却費	1.9	2.3	2.4	2.3	2.4	2.5	2.8	2.8	2.7	2.7
株式報酬費用	0.6	0.2	0.2	▲0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
EBITDA	8.1	3.7	1.9	4.1	5.7	4.3	3.8	5.8	11.4	10.9
経常利益	2.0	2.9	1.5	▲2.7	5.7	▲2.2	▲1.6	3.8	10.9	7.7
為替差損益	▲2.1	2.3	2.5	▲4.6	4.0	▲2.7	▲1.5	1.1	2.8	0.4
経常利益（為替差損益除く）	4.1	0.6	▲1.0	1.9	1.7	0.5	▲0.1	2.7	8.1	7.3
調整後当期利益	5.4	1.5	▲5.0	1.0	1.4	1.3	2.2	1.5	6.6	2.1

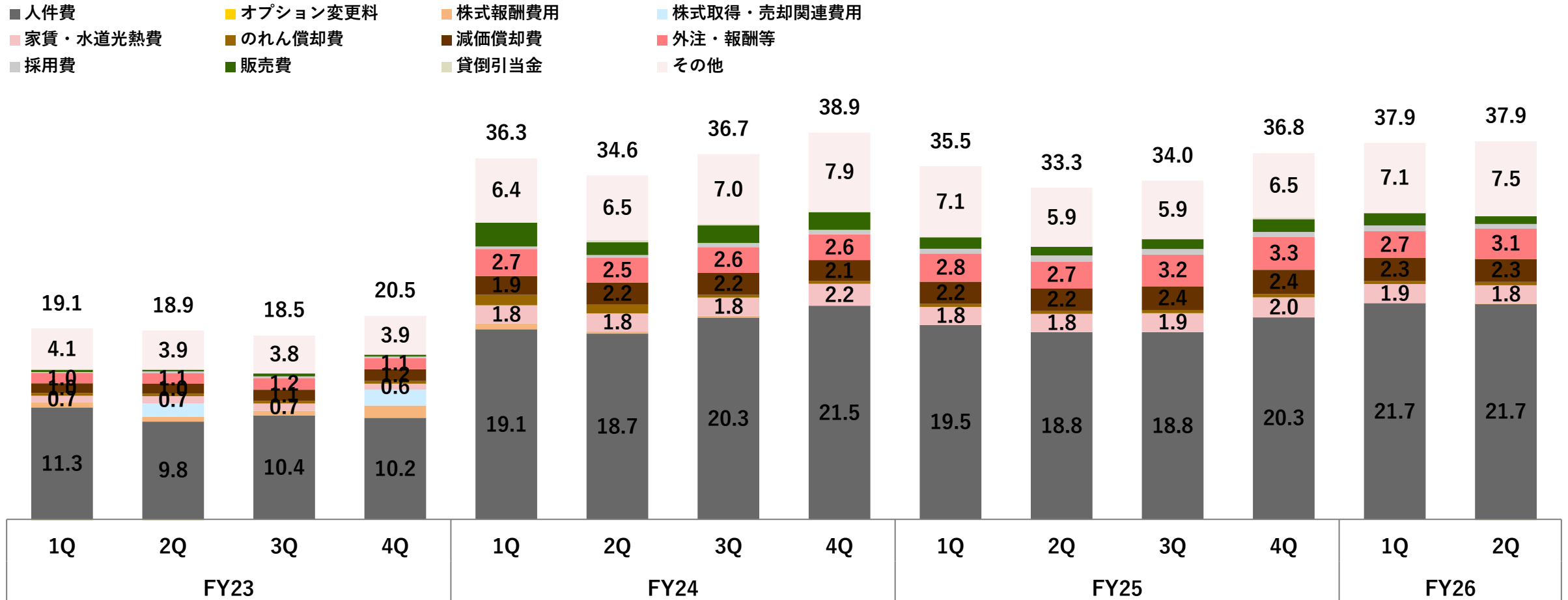
プロダクト別の粗利率に大きな増減なし

単位:億円



連結販売管理費は円安の影響で増加も、その他に特に大きな変動要因はなし

単位:億円



人員数は特に大きな変動はなく推移

単位:人

	FY24				FY25				FY26	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
プロダクト	356	359	345	383	378	383	393	402	396	395
クリエイター	537	519	519	502	494	503	527	513	524	533
北米	89	92	99	96	88	85	88	90	97	97
その他（本社等）	43	45	40	44	48	50	55	62	66	66
グループ合計	1,025	1,015	1,003	1,025	1,008	1,021	1,063	1,067	1,083	1,091

Appendix 1

会社概要

会社名	株式会社フリークアウト・ホールディングス		
設立	2010年10月1日		
資本金	35億5205万円		
所在地	〒106-0032 東京都港区六本木7-15-9 住友不動産六本木セントラルタワー7F		
役員構成	代表取締役社長 Global CEO	本田 謙	取締役 (常勤監査等委員) 井出 博之
	取締役 CFO	永井 秀輔	取締役 (監査等委員) 高田 祐史
	取締役 広告事業管掌	時吉 啓司	取締役 (監査等委員) 松橋 雅之
事業内容	グループ会社株式保有によるグループ経営戦略の策定・管理		
発行済株数	18,022,924株		
主要株主*1	本田 謙*2		37.59%
	伊藤忠商事株式会社		16.32%
	株式会社SBI証券		5.17%
	BBH(LUX) FOR FIDELITY FUNDS - PACIFIC POOL		4.07%
	スカパーJSAT株式会社		3.86%
	石橋 拓朗		3.79%
	株式会社日本カストディ銀行(信託口)		2.61%

*1. 2025年9月末時点の主要株主の状況を記載、発行済株式（自己株式を除く）の総数に対する所有株式数の割合

*2. 代表取締役である本田謙氏は資産管理会社MOTHERS OF INVENTION PTE. LTD.を通じて当社株式を保有

Appendix 2

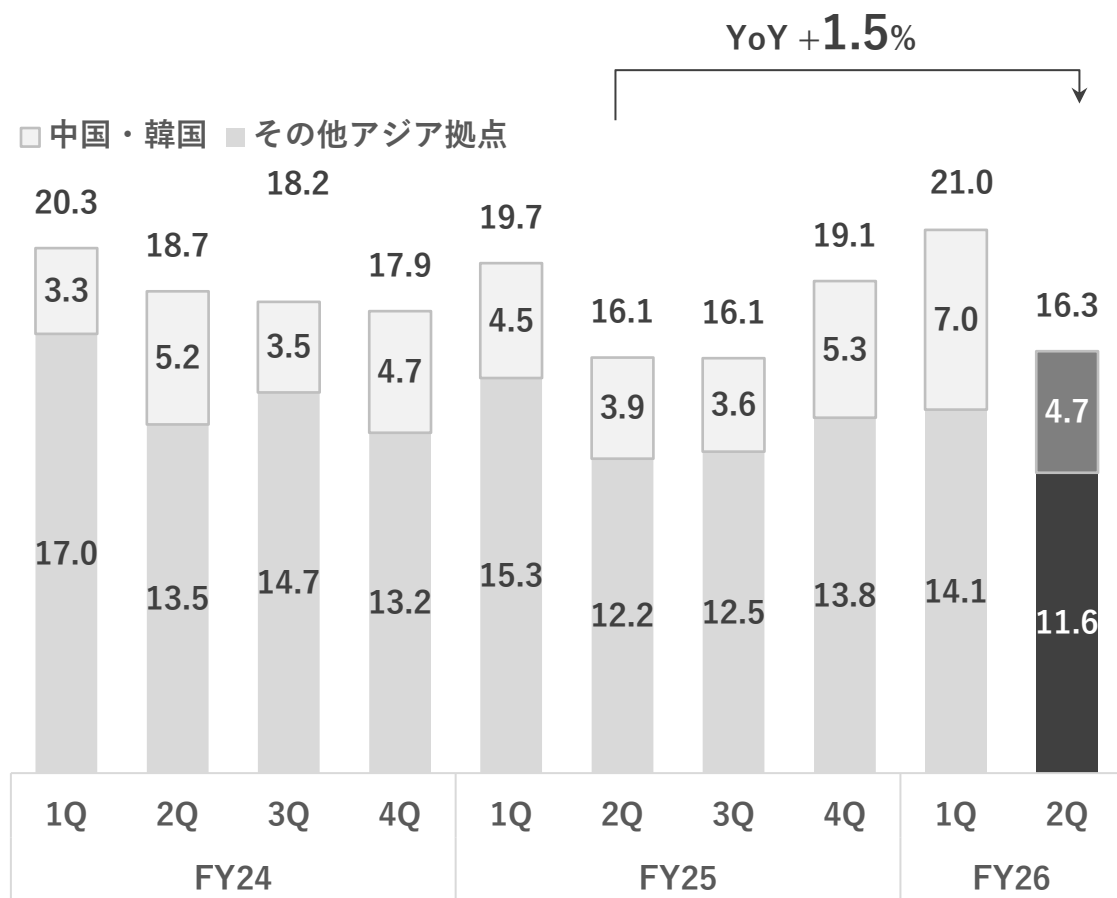
業績補足資料

中国・韓国事業 : クリエイタービジネス

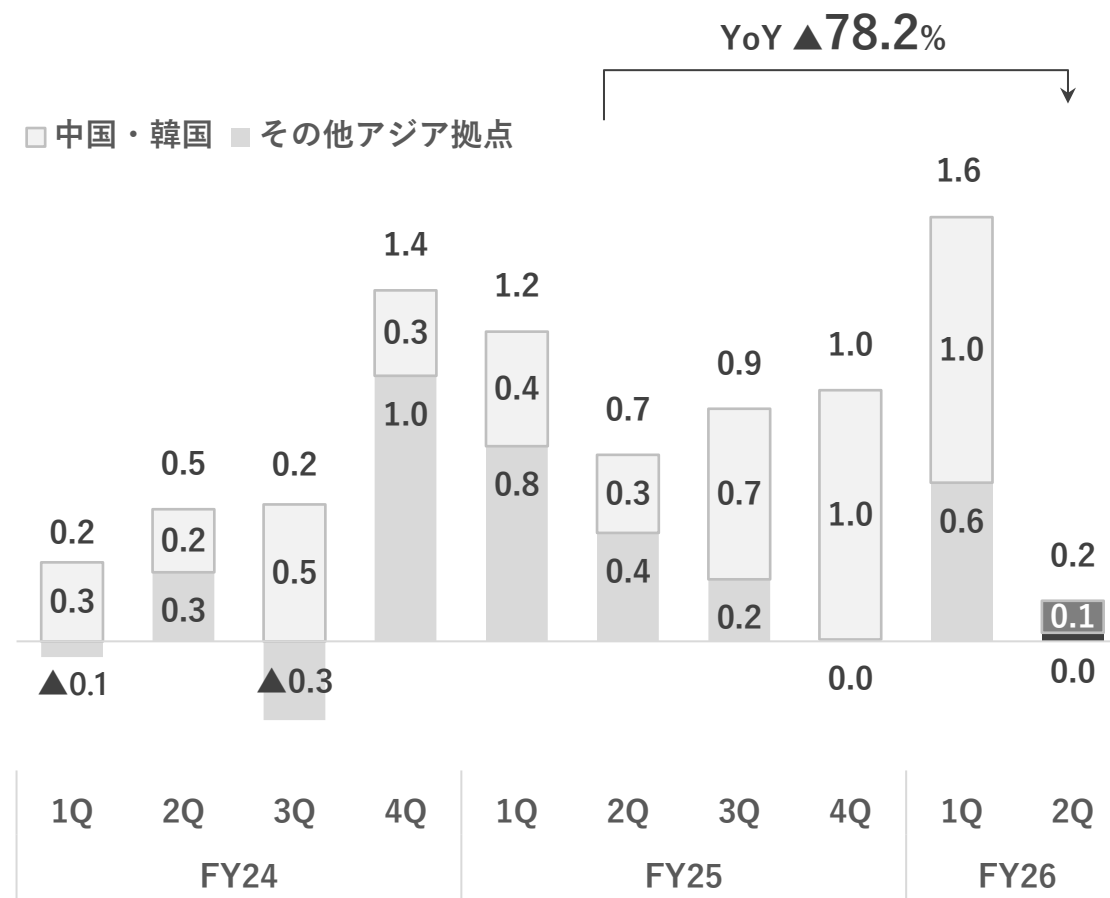
その他アジア拠点 : プロダクト事業

単位：億円

売上高



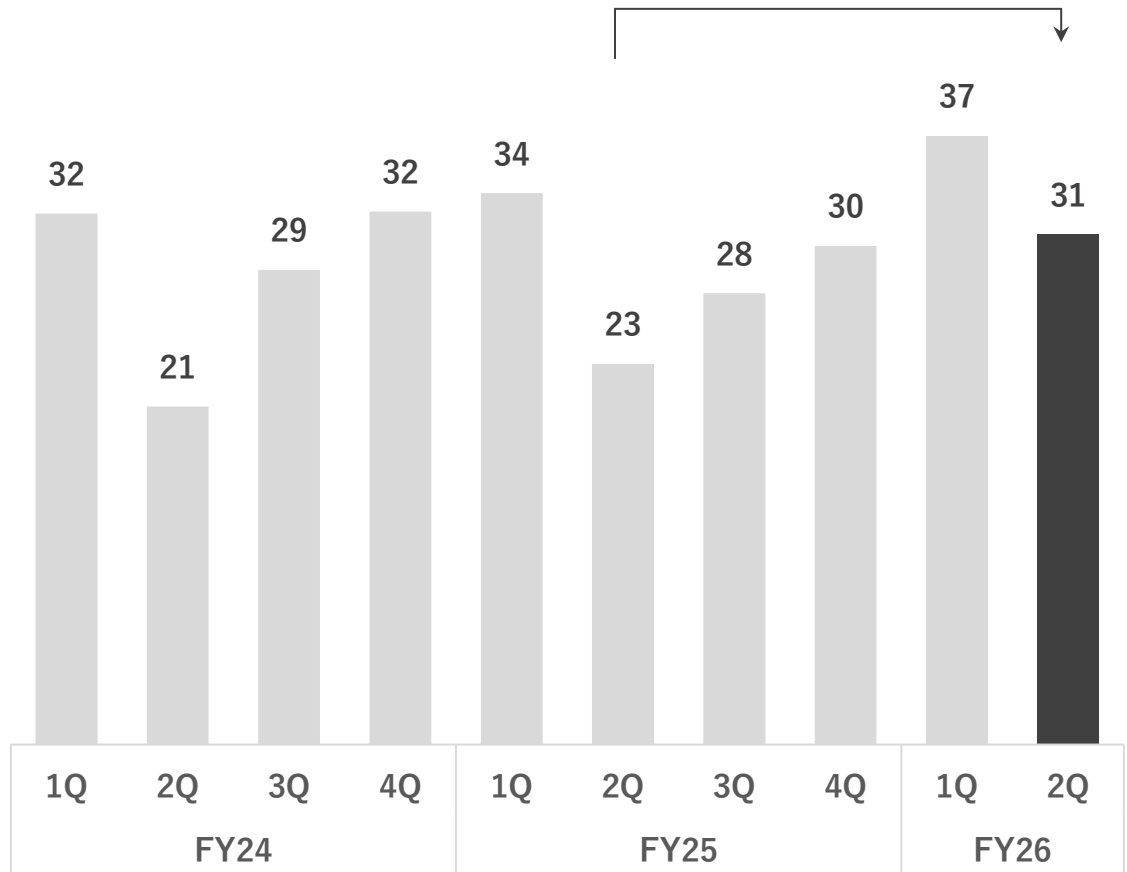
EBITDA



単位：百万ドル

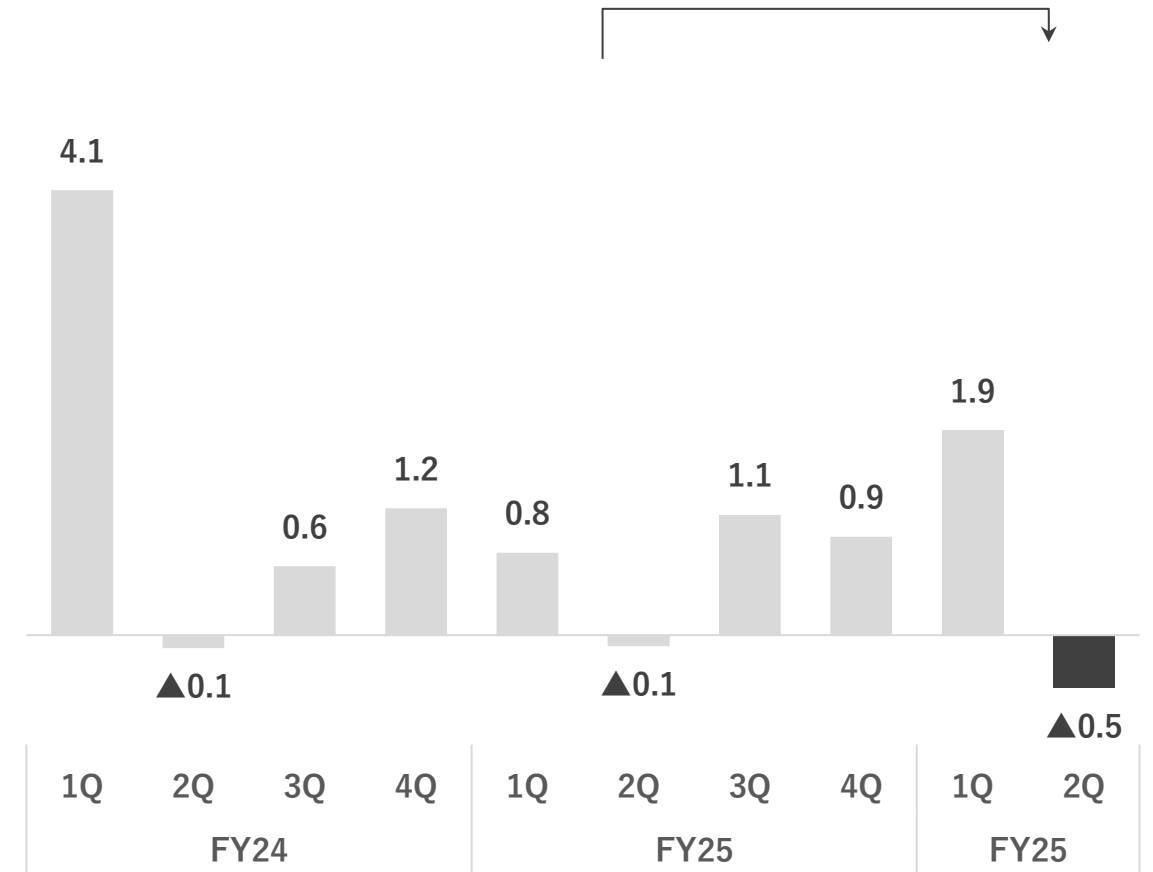
売上高

YoY +34.1%



EBITDA

YoY ▲4.8



（単位:百万円）

	FY26 2Q	FY25 2Q	前同Q比	FY26 1Q	直前Q比
変動費	9,571 67.2%	7,913 68.2%	20.9%	10,344 68.6%	▲7.5%
開発人件費	161 1.1%	163 1.4%	▲1.3%	140 0.9%	15.1%
サーバー関連費	195 1.4%	189 1.6%	2.9%	199 1.3%	▲2.3%
その他	3 0.0%	2 0.0%	89.2%	2 0.0%	96.5%
売上原価計	9,930 69.7%	8,268 71.2%	20.1%	10,685 70.8%	▲7.1%

(単位:百万円)

	FY26 2Q	FY25 2Q	前同Q比	FY26 1Q	直前Q比
人件費	2,167 15.2%	1,882 16.2%	15.1%	2,174 14.4%	▲0.3%
家賃・水道光熱費	185 1.3%	183 1.6%	0.9%	189 1.3%	▲2.1%
のれん償却費	32 0.2%	32 0.3%	0.0%	32 0.2%	0.0%
減価償却費	232 1.6%	221 1.9%	5.1%	232 1.5%	0.2%
外注・報酬等	305 2.1%	273 2.4%	11.9%	267 1.8%	14.2%
採用費	47 0.3%	61 0.5%	▲23.0%	58 0.4%	▲20.2%
販売費	77 0.5%	88 0.8%	▲11.9%	124 0.8%	▲37.6%
その他	747 5.2%	589 5.1%	26.7%	710 4.7%	5.2%
販管費計	3,792 26.6%	3,329 28.7%	13.9%	3,787 25.1%	0.1%

※金額の下に記載している%は対売上高比。

Appendix 3

フリークアウトグループ - At a Glance

人に人らしい仕事を。

Give People Work That Requires A Person.

近年、AI技術の躍進により、企業はデジタル変革への取り組みをより一層強化しています。しかし、我々フリークアウトは、AI技術による変革の核心は、単に既存の業務効率を向上させるだけではなく、新たな価値を生み出すことにあると考えています。すなわち、我々が目指すのは、AI技術による効率化で生まれた新しい時間、考え方によって、今までにない新しい価値を人が作り出す、「**人らしい仕事**」の**創造**です。これにより、AI技術の進歩が、仕事を奪われるというネガティブなものではなく、人々にとって希望に満ちたものとなることを願っています。

これからも我々フリークアウトは、「**人に人らしい仕事を**」をミッションに、AI技術の躍進の波に乗りながらも、人間が持つ創造性や感性を大切にしていきます。それによって、単なる効率化だけでなく、独自の要素や革新的なアイデアを社会に対してもたらすことができるでしょう。フリークアウトは、AI技術を最大限活用しつつ、人間が持つ独自性と共存・共栄する未来を実現することを目指しています。

代表取締役社長 Global CEO

売上高	EBITDA	営業利益	当期純利益	時価総額*1
503	19.5	1.0	2.8	95
億円	億円	億円	億円	億円

広告事業

インフルエンサー
マーケティング事業

日本	北米	アジア	UUUM 売上高
売上高 (DSP、アドプラットフォーム等)	売上高	売上高	UUUM 売上高
80 億円	171 億円	71 億円	195 億円
FY25	FY25	FY25	FY25
タクシーサイネージ シェア (都内)*2			
62.2%			

1) 2025年9月30日終値で計算

2) 分子は都内のIRIS社タクシーサイネージ導入タクシー台数、分母は都内のタクシー台数

- テクノロジー企業として、広告技術を中心に、多方面にプロダクトを展開。
- UUUMを傘下に持ち、広告主とメディアを繋ぐプラットフォームから、メディア領域にも拡大

プロダクト事業

広告主向け



国内最大級の広告在庫を保有するDSP



位置情報マーケティングプラットフォーム



コンテキストualターゲティングによるYouTube広告枠買付



(アジア) 海外拠点によるグループプロダクト販売

リテール向け



定番棚設置型リテールメディアサービス

メディア向け



広告プラットフォームの構築を一気通貫で支援するソリューション



プレミアムなデジタルサイネージ（タクシー）広告



Maroon

デジタルサイネージ配信システム

不動産賃貸業者向け



AIチャットボット×オペレーターによるハイブリッド型接客、物件掲載の自動化等のBPaaSソリューション

クリエイタービジネス

クリエイターマネジメント



国内最大のクリエイターネットワークを基盤とし、マネジメントやコンテンツ制作支援等包括的なソリューションを展開

広告営業



企業のインフルエンサーマーケティング課題に対する広告・プロモーション施策を企画・提供

北米

メディア向け



英語圏メディアの収益最大化を支援するプラットフォームサービス

その他

ベンチャー投資



複数ファンドの運営

本資料の内容ならびに説明についてご質問等がございましたら、下記までお問い合わせください。

お問い合わせ先

お問い合わせフォーム：<https://www.fout.co.jp/contact/company/>

お問い合わせの種類：IR関連



FreakOut
Holdings

Give People Work That Requires A Person.